

## 平成25年度 佐賀県学習状況調査、全国学力・学習状況調査結果の分析について

平成25年4月24・25日に、中学3年生を対象とした「佐賀県学習状況調査」、「全国学力・学習状況調査」を実施しました。

関係教科及び学習・生活に関する調査結果を分析し、改善に向けた取り組み事項をお知らせします。今後、さらに生徒の学力向上を図っていききたいと考えています。

### 1 佐賀県学習状況調査

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
社会	本校と県の正答率の比較では、本校は県平均をやや下回る結果となっている。内容・領域別では地理的分野の「日本の地域好生」「日本の諸地域」が弱く、「世界と比べた日本の地域的特色」は県と同レベルにある。歴史的分野では現代史の理解が今一步の状態である。観点別では、思考・判断が県平均よりも下回っている。地理的分野・歴史的分野での事象が起こった原因やつながりを把握できていない。	入試用の副教材で、地理的分野・歴史的分野の復習を進めていく。3年次に実施される実力テストの出題範囲に合わせて計画的に復習を重ねていくことで学力向上を図る。「思考・判断」能力の向上のため、資料やグラフを使った課題を数多く学習させ、情報を読み取る力を育てて、自分の考えをまとめさせたり、思考・判断の過程や成果を自分の言葉で的確に表現させる練習を重ねていきたい。
英語	本校と県の正答率の比較では、本校は県よりやや上回る結果となっている。到達基準の分布では、「十分達成」の生徒の割合が県よりも多く、「おおむね達成」「要努力」の生徒の割合も多い。昨年度は領域別分析において「書く力」が県よりも下回っていたが、今年度は改善が見られ、全体的な力の伸びが見られる。	書く力をつけるために、昨年度から定期テストで英作問題を予告問題として与え、テスト前に添削し、自分の言いたいことを表現しようとするところへの抵抗を少しでもなくする取り組みを重ねてきた。また、授業中においては、グループ活動で書く活動を積極的に取り入れるようにしてきた。今後は、自分のことや考えを自由に表現する機会を与えて、英語力を伸ばしていきたい。
理科	内容領域別の正答率の傾向をみると、物理・生物・地学分野については県の正答率とほぼ同じであるが、化学分野について大きく下回った。また、評価における4つの観点の中では「科学的な思考・表現」及び「実験・観察の技能」が下回っており、全体の記述傾向としては、文章記述による解答を求められる問題を不得手としている傾向が顕著に表れている。	化学分野については、本年度の化学分野の内容である「化学変化とイオン」の学習時に復習に力を入れ定着を図っていく。また、昨年度から各単元内で行っている実験・観察時の文章表現についても機会を更に増やし、継続的に取り組むことで力をつけさせていきたい。

### 2 全国学力・学習状況調査

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語A	本校と県との正答率の比較では、本校は県とほぼ同程度の結果となっている。昨年度は県よりやや下回っていたので、幾分上昇傾向にあると考えられる。領域では、他の領域が県とほぼ同等にある中で「書くこと」が県を下回っており、無解答者も他の領域に比べて目立つ。教科全体の到達度分布においては、「十分達成している」生徒も「おおむね達成」「要努力」の生徒もほぼ県と同等の結果となっている。	授業の中で、各単元・題材ごとに小感想を書くことや、文章の要約、自分の考え・意見を作文することなど、「書くこと」の活動を多く取り入れ、「書くこと」への苦手意識をなくし、週末課題や長期休業中の課題等にも「書くこと」の活動を積極的に組み込み、添削指導を繰り返すことによって「書くこと」に慣れさせ、苦手意識をなくし、文章表現力を高めるよう努めていく。
国語B	本校と県との正答率の比較では、本校は県よりやや下回る結果となっている。領域では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は県を上回っているものの、「読むこと」では県を下回る結果となっている。また、到達度分布においては、「おおむね達成」生徒は県より高いものの、「十分達成している」生徒が大きく下回る結果となっており、上位の生徒が県に比べて少なくなっていることが分かる。	授業の中で段落の関係や接続詞に着目してつながり方を確認する等の作業を多く行い、説明的な文章等の論理の展開を読み取ることに慣れさせる。また、小節・随筆等の文章においては、著者や登場人物の心情を読み取るために、会話文や表情・動作、叙景的な表現等をヒントに考えさせる活動を多く取り入れていく。また、週末課題・長期休業中の課題等でもそのような問題を多く扱うことで読解力の定着を図る。
数学A	本校と県の正答率の比較では、本校は県よりやや下回る結果となっている。昨年度は県より大きく下回っていたので幾分上昇傾向にあると考えられる。領域では他の領域に比べると「図形領域」が大きく落ち込んでいる。教科全体の到達度分布においては、「十分達成している」生徒は県に比べて少なく、「おおむね達成」「要努力」の生徒は県に比べて多くなっており、下位の生徒が多いことが分かる。	授業の理解度を高めるために、昨年度の既習内容と関連をつけるために領域毎に前学年の復習を行っている。3分前授業開始を実行し毎時間、前学習内容の定着を測る小テスト、週末には1週間の学習内容を定着させるため「週末問題」を実施している。夏季休業中には課題冊子を配布するとともに課題質問会を設定し、1・2年生の学習領域の定着を図る。
数学B	本校と県の正答率の比較では、本校は県の正答率を大きく下回る結果となっている。領域では他の領域に比べて「数と式」が大きく落ち込んでいる。教科全体の到達度分布においては、「十分達成している」生徒は県に比べて少なく、「おおむね達成」は県と同等、「要努力」の生徒は県に比べて多くなっており、観点別では「見方・考え方」「技能」が下回っており、文章問題などの記述式による問題解決を不得意とする傾向がある。	「見方・考え方」を問う文章問題の指導については、文章をよく読み取らせ、内容をイメージできるまで時間をかけて丁寧に指導していく。現在定期的に行っている「課題学習」も理解するまで書き直させていきたい。夏季休業中のサマースクールでは、多くの多岐にわたる問題にあたらせ、各問題の大意をつかませ解くための「技能」向上に努める。